地区防災福祉コミュニティ形成実装戦略の検討
－自主防災組織等との協働による「まちの減災ナース育成研修」のプロセス評価－

村上祐里香１），牛尾裕子１），斎藤美矢子１），網木政江2），緒方彩乃１）
1）山口大学大学院医学系研究科保健学専攻，2）山口大学地域レジリエンス研究センター

研究背景・目的

➢ **地区防災福祉コミュニティとは**

- 災害発生時においても地域の強い連帯感のもとに、住民が主体的となり適切な防災活動及び福祉活動を展開できるよう、**平時から防災活動や福祉活動など地域活動に積極的に取り組むコミュニティ**と定義した[1)2)]。
- 2013年に災害対策基本法が改正され創設された「地区防災計画制度」が目指すコミュニティに同じである。

➢ **まちの減災ナースとは**

- **災害平穏期**において、地域や地区の防災計画をふまえ、行政担当者や住民らと共に、看護の専門性を生かして減災活動に取り組み、**災害発生時**においても、被災地域の住民の健康と生活を支援する役割を担う看護職を指す。
- 日本災害看護学会は2018年から指導者養成を開始し、学会認定指導者による「まちの減災ナース」育成を推進している。

➢ **本研究の目的**

- **地区防災福祉コミュニティ形成**を目指し実装した、自主防災組織等との協働による「まちの減災ナース育成研修」のプロセス評価を行い、**実装戦略（自主防災組織等との協働による「まちの減災ナース育成研修」の企画実施）**を検討し精錬させる。

方　法

１　研究デザイン：**実装研究**

２　調査方法

- **EBIは災害対策基本法による地区防災計画制度、実装戦略を自主防災組織等との協働による「まちの減災ナース育成研修」の企画実施**とした。
- A市3地区に在住在勤の看護職を対象に2022年7～10月、4回コースの研修を実施した。
- 研修終了2週間後に、研修に参加した3地区の自主防災組織、消防団、民生委員等地区防災関係住民へ3～5名の地区別グループインタビュー調査を実施した。インタビューガイドに基づき、「まちの減災ナース研修の企画、実施への意見や感想」「減災ナースの今後の活動への期待、組織としてのサポート」等、自由に語ってもらった。

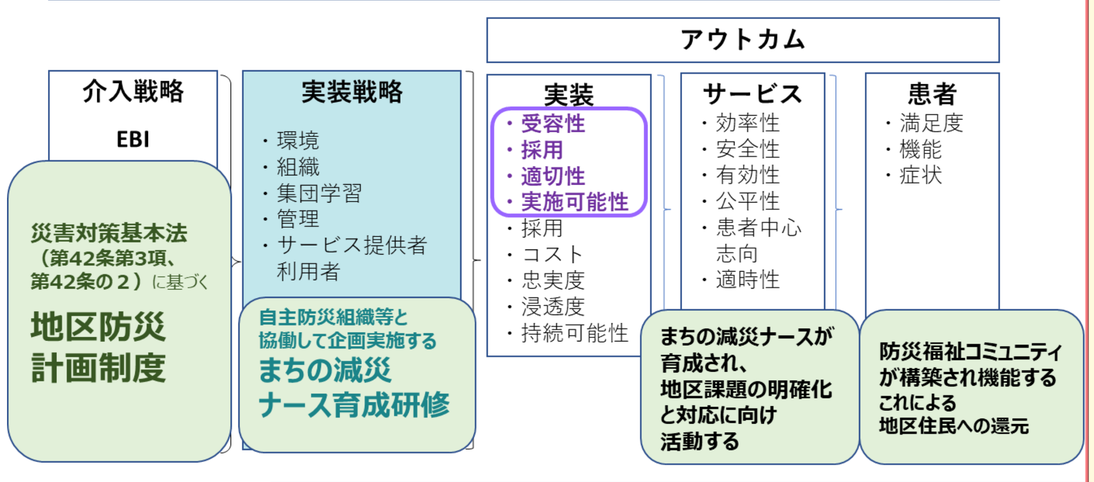
３　分析方法

- 実装初期に評価可能な**「受容性」「採用」「適切性」「実施可能性」**の観点[3)]から、「まちの減災ナース育成研修」のプロセスを評価した。

４　倫理的配慮

- 所属大学の倫理審査委員会の承認（693-1,2）を得て実施した。

本研究のEBIと実装戦略とアウトカム



Proctor E. at. al. Adm Policy Ment. Health.2011;38:65-76（島津太一先生作図）に追加

実装研究は、学際的なアプローチにより、患者、保健医療従事者、組織、地域などのステイクホルダーと協働しながら、**エビデンスに基づく介入（EBI）**を効果的、効率的に日常の保健医療福祉活動に組み込み、定着させる方法を開発、検証し、知識体系を構築する[4)]実装科学に基づく研究方法である。
実装戦略とは、**EBI**の採用、実施を助け、持続可能にし、スケールアップさせるための方法である[4)]。

結　果

表１　自主防災組織等との協働による「まちの減災ナース育成研修」の実装アウトカムの観点における代表的コード

実装アウトカム	本研究の考え方	抽出したコード27（B地区10、C地区5、D地区12）のうち、代表的なコード（地区）	
受容性	プログラム介入※に関係する自主防災組織等の認識	自分たちで避難所を立ち上げても復旧作業ぐらいしかできないので、**専門的知識を持つナースの必要性は十分あり、素晴らしい取り組み**と思う（D）。	**大学主催のためハードルが高い**と思う看護職もいたので、地域に密着した減災ナースの育成というような話だと声かけがしやすかった（C）。
採用	プログラム介入※を利用するという自主防災組織等の意思	減災ナースに**自主防災組織に入ってもらうことで若返りを図り、避難所に関する課題解決、防災研修や防災訓練の企画検証等を一緒に試行錯誤してもらえると助かるし、期待**している（D）。	先日大雨警報で避難所開設した際、12人程避難され朝様子を見に行ったが、このような時に地域の減災ナースが声掛けや健康チェックをしてくれると安心すると思う（B）。
適切性	地区の課題にこのプログラム介入※が合っているという認識	企画参画により、**固定化した組織に減災ナースという新しい風が入り、つながりが広がる**ことで、地区の防災福祉のコミュニティを高めるのに役に立ちそうと全くそう思う（D）。	地域で活動するメンバーは固定化しており、看護師5名について特に日頃地域の行事に参加していない方については地域に目を向ける意識づけになって良かった（C）。
実施可能性	地区での自主防災組織の活動に、その介入※（育成された減災ナースも含む）を上手く使用できる程度	**まちの減災ナースを自主防災会に入れて活動していきたい**が、以前防災士を入れた組織づくりができなかった経験があるので、自主防災会の会議で減災ナースとの関係を説明し、きちんと話し合って進めたい（D）。	**地域課題がたくさんありすぎて、何からやっていいかわからない**（D）。
	※自主防災組織等との協働による「まちの減災ナース育成研修」の企画実施		

- **受容性**では、「専門的知識を持つナースは災害対応に必要で、素晴らしい取り組み」と好意的に受け入れられた一方で、「大学主催では看護職にとってハードルが高く」声かけしにくいと課題も指摘された。
- **採用**では、「自主防災組織入会により組織の若返りを図り、避難所の課題解決、防災訓練企画等を一緒にしてもらうと助かる」など、自主防災組織から減災ナースとの協働の意思が確認された。
- **適切性**では、「固定化した組織にナースが入り、つながりが広がる」など、地域課題解決に向けて研修の企画実施が合っていると認識していた。
- **実施可能性**では、「ナースを自主防災組織に入れ活動したい」など、地区自主防災活動に組み込みたいと認識していた。一方、「地域課題がありすぎて、何からやっていいかわからない」など、多くの地域課題がある中で研修を企画実施しても、課題解決に直結しないという認識もあった。

考　察

- **実装戦略**である、自主防災組織等との協働による「まちの減災ナース育成研修」の企画実施は、地区防災関係住民に概ね受け入れられていたが、参加ハードルを下げるための周知方法等の検討が必要であった。
- 避難所での健康管理者の不在、自主防災活動の形骸化といった課題を背景に、この地区への新たな刺激としてこの**実装戦略**は適切であった。
- 一方、ナースへの期待が大きいため受講者が重荷に感じないよう、受講者の意向も把握した上での調整が課題であった。
- 地域課題に対し**研修の企画実施**は概ね合っていたが、災害以外も含め地域課題の優先度を把握しておく必要があった。
- 本研究における**EBI**は、防災活動や災害発生時の活動に留まらず、日ごろの地区住民のつながりづくりのプロセスを通して、減災に寄与することを目指したが、それについての具体的な語りが得られなかった。日常の福祉課題に取り組むことが、減災にもつながるという視点や減災ナースの役割を、地区防災関係住民に理解してもらうことが重要であった。

参考・引用文献

1）倉田和四生．防災福祉コミュニティ―地域福祉と自主防災の統合―．京都：ミネルヴァ書房，1999；186-197.
2）内閣府．平成 25 年度防災白書．防災白書 2013.32．https://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/pdf/H25_honbun_1-4bu.pdf（アクセス：2023 年12 月12 日）
3）梶有貴，島津太一監訳.内富庸介監修．ひと目でわかる実装科学がん対策実践家のためのガイド．東京：保健医療福祉における普及と実装科学研究会，2021；36-37.
4）D&I 科学研究会．普及と実装研究（D&I 研究）ポリシー．https://www.radish-japan.org/resource/research_policy/index.html（アクセス：2023 年12月21 日）

演題発表に関連し，開示すべきCOI関係にある企業などはありません．